

# ゆうゆうの日常

～5月だより～

令和7年6月2日

## ○さつま芋の苗植え



昨年に引き続き、地域の方のご厚意でさつま芋の苗植えを体験しました。昨年は、穴を掘っての苗植えでしたが今回は添え木を使い、苗を土の深いところまで植えるという方法を教えていただきました。前日が雨で土が重く、長靴が土に捕まってしまう、おっとと……。それもみんなで笑い話になりました。

地域の方から子どもたちに「なんでも体験しんちゃい。なんでも経験することは君らにとって良いこと。経験する事に損なことはない。」とアドバイスもいただきました。秋には、さつま芋掘りです。子どもたちにとって良い経験、良い学びとなればと思います。



## ○玉野港フェスティバル



社会体験として、玉野に港フェスティバルに行きました。輸送艦しもきたを見学しました。遠くから見ても輸送艦が見えるほど大きく、子どもたちは空を見上げるように輸送艦を見上げていました。見学では、災害時に物資等を輸送する動画を見ながら自衛隊の方から説明を受けました。また、思わぬ学びがありました。たまたま入ったお店が就労支援事業所で、将来を考える年齢になった子どもたちは、店内を良く観察。将来の自分の姿は想像できないけれど、働く大人になると考えている子どもは、職員から説明を受けながら特に利用者の方の言動を観察したようです。身だしなみや気遣い、あいさつなどゆうゆうで集中的に指導されていることをすでに実践されている大人の姿を見ることが出来ました。これも学びに変え、生きる力としてもらいたいと思います。





## ゆうゆうの療育～5月だより～



〇言ってもらふこと・・・。

ゆうゆうの日常5月より さつま芋の苗植えで地域の方が「なんでも体験しんちゃい。なんでも経験することは君らにとって良いこと。経験する事に損なことはない。」と子どもたちに言ってくださった言葉をあなたならどう受け取りますか？

ゆうゆうでは、地域の方の言葉に感謝を感じています。子どもたちが素直にその言葉を受け取りどんなことでもチャレンジすることが出来たなら、社会性やコミュニケーションなどを学んだり身につけたりすることで子どもの成長につながる可能性があるからです。たった一言でも地域の方は、子どもたちの療育(子育て)に参加してくれたということです。

療育(子育て)というのは、母親だけであるものでもなく、父親、祖父母などの夫婦や家族だけであるものでもありません。多くの方が関わるからこそ子どもが人格的、社会的に成長するのです。



人からのアドバイスを素直に受け取れない人がいます。

その理由は、・言語の理解が不十分だったり、

- ・自分のマイナスな部分を認めたくなかったり、
- ・自分のルールを曲げたくない

など人によって様々あるでしょう。

けれど、

他者から見た自分はある意味、社会の鏡が映し出した自分の姿であると言えます。

その上で、他者がアドバイスをするというのは、自分を見直すきっかけとなります。

言ってくれないと気づかないかもしれないのなら、他者が言ってくれることはいじめというよりも優しさからと言えます。

親も子ども、人の言葉を素直に受け取り社会の鏡が映し出した自分の姿を見つめ直し、成長の糧としてほしいと思います。



自分って  
どんな人？

